

## 帰国後の活動

帰国後は、海洋アライアンス内で実施される学内報告会での成果報告のほか、学内講演会、海洋アライアンス主催のシンポジウムで代表に発表していただきます。

### 学内講演会

受入機関を中心とした研究者・専門家による招待講演とインターンシップ参加学生の成果報告を国際機関への就職やインターンシップに興味がある本学学生に対して行っています。派遣学生は全員参加となっており、学生同士の横のつながりを作ることができます。



### 対外発表

毎年7月に海洋アライアンスが主催するシンポジウム「東京大学の海研究」において、インターンシップ参加学生の代表が成果報告を行います。また共同研究を推進したインターンシップの場合には、それ以外に成果を学術論文として各自でまとめていきます。



### 海洋学際教育プログラムの修了

インターンシップに参加した学生に対しては、海洋学際教育プログラムの修了を推奨しています。

## 海外インターンシップ プログラム Q&A

- Q** インターンシップへの渡航・滞在費への援助はありますか？
- A** 本インターンシップに係わる学生の渡航、滞在等の費用は原則として全額海洋アライアンスより支援されます。ただし支給内容は派遣先機関によって異なりますので、詳細は派遣決定後に通知します。
- Q** インターンシップに参加する場合の必須条件を教えてください。
- A** 派遣先機関のスタッフとともに業務や研究に取り組むのはもちろんですが、帰国後に3種類の報告書(全体報告書(日本語)、成果報告書(英語、日本語)、要旨(日本語))を提出することが必須条件になります。なお、留学生の場合には全て英語で問題ありません。



### プログラム連絡先

東京大学海洋アライアンス 海外インターンシップ担当

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5

Tel.: 04-7136-5455 (内線: 65455) Fax.: 04-7136-6418 (内線: 66418)

E-mail: [kaigai@oa.u-tokyo.ac.jp](mailto:kaigai@oa.u-tokyo.ac.jp)

URL: <http://www.oa.u-tokyo.ac.jp/>

## 東京大学海洋アライアンス 海外インターンシップ



# インターンシップ概要

## 海洋アライアンス「海洋学際教育プログラム」とは？

海洋アライアンスでは、海に関する幅広い教養を備えた人材育成を目的として、東京大学の5研究科と共同した大学院横断型教育プログラムを2009年4月に開始しました。このプログラムは、東京大学の大学院生であれば誰でも履修可能で、所定の単位を取得した学生には修了証が発行されます。

## 海洋法・海洋政策インターンシップ実習

海洋学際教育プログラムの開始に伴って、実例に基づいて海洋環境に係わる海洋法・海洋政策を総合的に学ぶ目的でインターンシップ実習が開始されました。このインターンシップでは、国土交通省（気象庁、海上保安庁を含む）、国立研究開発法人水産研究・教育機構、環日本海環境協力センター（NPEC）を中心に、毎年約15～20名の学生が派遣されています。期間は2週間～1カ月程度が基本で、海外での実習が含まれるコースもあります。実習参加と報告書提出の要件を満たした場合には、2単位が認定されます。

## 海外インターンシップ

海洋アライアンスの海外インターンシップは、総合海洋基盤（日本財団）プログラムのプロジェクト「海外インターンシップによる国際的な海事人材の育成」の中で行われています。このプロジェクトでは、「海洋学際教育プログラム」の履修生の中から、国際機関や海外の研究機関に2～3カ月派遣を行います。実務体験だけでなく、現状の課題発見と解決の方策を発見・探求する現場対応型の研究・実習を行うことが目的です。海洋アライアンスが連携する国際機関への派遣と、学生自らが交渉して受入承諾を得た国際機関・研究機関などへ派遣する一般枠の2種類があります。インターンシップ参加後、報告書を適切に提出した学生には「海洋法・海洋政策インターンシップ実習」の単位が認定されます。2014～2017年度の4年間で、14機関へ39名の学生が派遣されました。海洋アライアンスとの連携機関は、国際連合食糧農業機関

# インターンシップ派遣先機関

(FAO)、国際海事機関(IMO)、国際連合工業開発機関(UNIDO)をはじめ9機関となっています。2018年度もこれらの機関への派遣が検討されています。一方で、一般枠は5機関へ6名が派遣されています。

派遣実績(2014～2017年度)

機関名	派遣地域	派遣学生数/年度				
		2014	2015	2016	2017	
 国際連合食糧農業機関 (FAO)	ローマ	2	1	-	-	
	モリシャス	-	-	1	-	
 国際水路機関事務局 (IHB)	モナコ	1	-	-	-	
 太平洋津波警報センター (PTWC)	ホノルル	1	1	-	-	
 国際津波情報センター (ITIC)	ホノルル	1	1	-	1	
	 国際海事機関 (IMO)	ロンドン	-	2	-	2
 東南アジア漁業開発センター (SEAFDEC)	バンコク	-	1	1	2	
 国際連合工業開発機関 (UNIDO)	ウィーン	-	-	4	5	
 国際原子力機関 (IAEA)	ウィーン	-	-	2	1	
	モナコ	-	-	-	1	
 ユネスコ政府間海洋学委員会 (UNESCO/IOC)	オステンド	-	-	1	-	
	ヴェニス	-	-	1	-	
一般枠	国際協力機構 (JICA)	アンティグア・バーブーダ	1	-	-	-
	アメリカ海洋大気庁/太平洋海洋環境研究所 (NOAA/PMEL)	シアトル	-	1	-	-
	アメリカ海洋大気庁/南西水産科学センター (NOAA/SWFSC)	サンディエゴ	-	-	1	1
	オーストラリア連邦科学産業研究機構 (CSIRO)	ホバート	-	-	1	-
	メリーランド大学付属チェスピーク海洋生物学研究所 (CBL)	メリーランド	-	-	-	1
合計		6	7	12	14	

# インターンシップの流れ

